

News Release

産業用需要は極めて旺盛であったものの、プラチナ市場は供給過剰へ。

ジョンソン・マッセイの最新の白金族需給調査報告書“PGM Market Report”によると、2017年のプラチナ市場は僅かではあるが供給過剰となった。南アフリカの鉱山からの供給量は増加したものの、ロシアやジンバブエからの出荷量が減少したことにより、全体としては2016年とほぼ同等の水準であった。一方、リサイクル量は緩やかな改善を示した。

2015年から2016年にかけて非常に旺盛であった日本の投資需要が2017年は減速したため、プラチナ総需要は前年比2%減の247.7トンとなった。また、世界最大のプラチナ宝飾品市場である中国でも宝飾品向けのプラチナ消費量が減少した。対照的に、中国のガラスや化学産業の生産能力拡張により2017年のプラチナの産業用需要は過去最高となった。欧州におけるディーゼル車の生産台数は2016年から2017年にかけて安定的に推移したため、自動車触媒向けのプラチナ需要はほとんど変化がなかった。

PGM Market Reportの著者であるアリソン・カウリーは次のように述べている。「2017年はプラチナ需要にとって厳しい一年になると予想していましたが、世界的に見ればディーゼル車の生産台数は想定していたよりも良く、また、中国の宝飾品向け需要も2017年の後半になって幾分持ち直しの動きが見受けられました。本当の意味での明るい材料は産業用需要で、こちらは前例のないレベルでした。中国政府の政策に刺激されて化学や繊維ガラス分野で多額の設備投資が行われ、その投資によりプロセス触媒やガラス製造装置向けのプラチナ需要が押し上げられました。」

産業用需要は今年も好調を維持するであろうが、自動車触媒向け需要や投資需要は減少すると見込まれることから、2018年のプラチナ市場の供給過剰幅は昨年よりも拡大するであろう。鉱山でのプラチナ生産量が増加する事は考えにくいですが、廃車市場は今年も世界的に回復が続くと予想されることから、リサイクル量は増加するであろう。

欧州のディーゼル車の生産台数は減少し、またEuro 6d-TEMPへの対応のため一台当たりの担持量が減少する事から、今年の欧州におけるディーゼル車向けのプラチナ需要は減少するであろう。宝飾品製造向けのプラチナ需要もわずかに減少すると思われるが、中国市場が安定化の兆しを見せてきているため、減少率は緩やかになるものと予想される。中国の化学、石油、そしてガラス分野での大規模な投資は続く事から、産業用需要はここ数年来の好調を維持するであろう。

ジョンソン・マッセイのPGM Market Report May 2018には燃料電池車に関する特集がある。燃料電池車向けのプラチナ需要は、2018年は特に中国で大きく増加するであろう。中国の多くの都市で始まる燃料電池車プログラムに向けて、多量の燃料電池スタックの発注がなされた。これらの燃料電池スタックは2018年から2021年の期間中に納品される見込みである。

ジョンソン・マッセイの自動車および燃料電池担当シニアアナリストであるマージェリー・ライアンは次のようにコメントしている。「燃料電池技術は乗用車のみならずトラックやバス等の重量車でも使用されており、燃料電池車の数は増えています。中国の自動車メーカーは様々なタイプの燃料電池車を開発しており、とりわけバスは近い将来の有望な市場です。私たちは今後数年間に数百の燃料電池バスが中国の主要都市を走る事になるだろうと考えています。もちろん燃料電池車は電気のみで車体を動かす完全な電動車であり、中国政府も補助金を出して普及を後押ししています。」

自動車触媒向け需要が増大したことを受け、パラジウム価格は過去最高へ。

自動車触媒で使用されるパラジウム需要は2016年から14.0トン増加し、2017年は過去最高の261.0トンとなった。化学製品向けのパラジウム需要も過去最高の水準にあり、一方で上場投資信託(ETF)投資家による売り越し幅は減少したことから、2017年におけるパラジウムの総需要は前年比8%増の313.5トンとなった。

使用済み自動車触媒から回収されるパラジウムのリサイクル量は著しく増加したものの、ロシアからの供給量は13%減少したため、鉱山からの一次供給量とリサイクルからの二次供給量を合わせた総供給量の上昇は小幅なものにとどまった。その結果、パラジウム市場の供給不足幅は2016年の2.9トンから2017年は25.0トンへと拡大した。

ジョンソン・マッセイのマーケットリサーチマネージャーであるルーベン・ライタタは以下のように述べている。「ETF投資家は過去3年間で50トン以上のパラジウムを売り越しました。このETF投資家による大幅な売り越しにより、同期間中の自動車触媒向け需要は大きく伸びたものの、市場の流動性は維持されてきました。しかしながら供給不足が長く続いている事は価格に実質的な影響を与えており、2018年1月には過去最高の1オンス当たり1,129ドルに達しました。」

世界のガソリン車生産台数が増加するのに伴い、2018年のパラジウム需要は266.4トンとなり再び過去最高を更新する見込みである。しかしながら、パラジウム価格が高騰している事により代替品への移行が進んでいるため、電子部品や歯科合金向けなどの産業用需要は幾分減少するものと予想される。また、使用済み自動車触媒からのリサイクル量は昨年に引き続き再び増加すると思われるが、投資需要は昨年同様売り越しのままであり、売り越し幅も昨年と同程度であろうと予測している。これらの要因は自動車触媒需要の伸びを上回るため、供給不足幅は7.4トンに縮小するであろう。

ジョンソン・マッセイの市場調査部のゼネラルマネージャーであるピーター・ダンカンは以下のようにコメントしている。「2018年の自動車触媒向け需要の成長率は2%となり、昨年よりも緩やかになります。しかしながら中国の一台当たりの担持量が伸びる時期は当初の予想よりも早くなるであろうと考えています。中国の一部の省や都市では次期排出ガス規制China 6の初期段階の導入を前倒しする可能性が高まっており、従って自動車メーカーのいくつかはChina 6aを飛ばしてChina 6bへ直接移行すると見られるからです。これは早ければ来年起こる可能性があり、中国の自動車触媒向けパラジウム需要を10%以上押し上げる事になるだろうと予測しています。」

ジョンソン・マッセイの白金族需給調査報告書である PGM Market Report はウェブサイト (<http://www.platinum.matthey.com/services/market-research/pgm-market-reports>) で閲覧およびダウンロード可能で、英語版および中国語版がある。PGM Market Report には 2017 年における白金族市場の需給動向に加え、2018 年の見通しが掲載されている。ツイッターアカウント@PMMJM にもツイートされる。

より詳細な情報をご希望の方は下記までご連絡ください:

Peter Duncan

Johnson Matthey plc

T +44 1763 256317

E peter.duncan@matthey.com

Rupen Raithatha

Johnson Matthey plc

T +44 1763 256322

E rupen.raithatha@matthey.com

報道関係者各位:

ジョンソン・マッセイの市場調査部は 1980 年代から白金族市場の世界規模での需給調査を実施しております。1985 年から 2013 年にかけては Platinum または Platinum Interim シリーズとして、2014 年以降は PGM Market Report として、需給データを年 2 回発行しています。過去のレポートやデータは次の弊社サイトからダウンロード可能です。

<http://www.platinum.matthey.com/services/market-research/pgm-market-reports>